

# 平成 21 年度 第 3 回 庄戸トンネル検討会 議事要旨

日 時：平成 21 年 5 月 19 日（木） 検 討 会 14:00～16:00

場 所：コスモパークビル（荒川区）

出席者：今田徹委員長、岩井勝彦委員、亀岡美友委員、城間博通委員

議 題：

- ・地盤沈下に対する管理基準値の設定
- ・分合流部の沈下予測
- ・低土被り部の沈下予測

議事要旨：

資料の内容について説明を行い、下記の意見があった。

<地盤沈下に対する管理基準値の設定に関する意見>

- ・家屋への影響は不等沈下が問題となる。沈下量の絶対値ではなく、傾斜角が重要である。

<分合流部の沈下予測に関する意見>

- ・（低土被りの）都市トンネルでは、脚部沈下に伴う共下がりを防ぐことが重要である。脚部の地山強度については、適正な評価に留意すべきである。
- ・解析値はひとつの目安と捉えるべき。（庄戸トンネルは、超大断面・低土被りなど解析の評価が）難しいケースであり、解析値は慎重に扱う必要がある。
- ・実際に施工すると緩みがでて、解析値以上の内空変位や沈下が生じる場合もある。物性値にはある程度の幅を持たせて解析する考え方もあるのではないかな。
- ・弾性解析の結果は、地盤が一定の性質を保っていることが前提となる。地盤の緩みを抑え、一定の性質を保つための補助工法の議論が今後の課題となる。
- ・現段階では、物性値に幅を持たせて、補助工法等の検討を行うべきではないかな。

<低土被り部の沈下予測に関する意見>

- ・開削工法による変位は僅少であるが、全く生じないということにはならないだろう。

<その他>

- ・分合流部の技術的問題については、引き続き課題抽出を行い、検討を行っていく必要がある。

以 上